

年金（２） モラルハザード

【ねらい】

生活保護よりも強制貯蓄が望ましくなる理由について，モラルハザードに基づく議論を理解する

（予告）私的年金が存在しなくなる理由について，逆選択に基づく議論を理解する。その準備として，保険の原理を理解する

【モデルの想定】

２期間ライフサイクル・モデル

消費者は２期間（０現役期，１引退期）を生きる

現役期に１の労働所得を得る

金利はゼロ

２タイプの消費者が存在する

（１）完全に近視眼的。効用関数は， $U = u(C_0)$

（２）合理的な消費者。効用関数は， $U = u(C_0) + u(C_1)$

情報の非対称性があり，消費者がどちらのタイプかは本人以外にはわからない（政府にもわからない）

生活保護制度が存在し，貯蓄が一定量以下の場合，最低水準との差額を生活保護費として支給する。財源はその世代の現役期の税 θ とする（現実の制度を描写するには，つぎの世代の税負担になると考えるのが適当であるが，世代間の所得分配の問題をもちこまないように，モデルを組み立てる）。

【文献（訂正）】

「小塩・第４章」は第２版のもとで，第３版では「第５章」が正しい